保存版

イニシエーションの正しい受け方

1988年3月サマナ用発行

(サマナ用)

name

目　　次

	ページ
◎パーフェクト・サーヴェーションの目的について ・・・・・・・・・・・・・	1
◎はじめに ・・・・・・・・・・・・	2
◎電極帽子について ・・・・・・・・・・・・	2
（1）スポンジ・帽子について ・・・・・・・・・・・・・	2
（2）電極ケーブルについて ・・・・・・・・・・・・・	3
（3）銀板について ・・・・・・・・・・・・・	3
（4）帽子のかぶり方 ・・・・・・・・・・・・・	3
（5）耳クリップについて ・・・・・・・・・・・・・	4
◎ゲルについて ・・・・・・・・・・・・	4
◎注射器について ・・・・・・・・・・・・	5
◎消耗品について ・・・・・・・・・・・・	5
◎携帯基板本体について ・・・・・・・・・・・・・・	6
（1）定期チェックのおすすめ ・・・・・・・・・・・・・	6
（2）基本的な使い方 ・・・・・・・・・・・・・・	6
（3）充電池の取り付け方・取り外し方 ・・・・・・・・・・・・・	7
◎充電器について ・・・・・・・・・・・・	8
（1）基本的な使い方 ・・・・・・・・・・・・	8
（2）充電時間について ・・・・・・・・・・・・	8
（3）電池1個での充電について ・・・・・・・・・・・・	8

ページ

◎ＤＣコンバーターについて ・・・・・・・・・・・・ １０

（１）ご使用前に ・・・・・・・・・・・・ １０

（２）仕様 ・・・・・・・・・・・・ １０

（３）使用上の留意点 ・・・・・・・・・・・・ １１

◎イニシエーションの感じ方について ・・・・・・・・・・・・ １１

◎修理に出す前に ・・・・・・・・・・・・ １２

（１）携帯基板本体 ・・・・・・・・・・・・ １２

（２）電極ケーブルの断線とその修理 ・・・・・・・・・・・・ １２

（３）充電器とＡＣアダプター ・・・・・・・・・・・・ １４

◎据え置きパーフェクト・サーヴェーションについて

Ａ．構成 ・・・・・・・・・・・・ １５

Ｂ．セッティングについて ・・・・・・・・・・・・ １６

Ｃ．立ち上げについて ・・・・・・・・・・・・ １６

Ｄ．Ｅ４のチェックとその対応について ・・・・・・・・・・・・ １６

電源ユニットチェック ・・・・・・・・・・・・ １６

モニター画面チェック ・・・・・・・・・・・・ １７

◎マントラメトロノーム・バージョンⅠ ・・・・・・・・・・・・ ２０

◎マントラメトロノーム・バージョンⅡ ・・・・・・・・・・・・ ２２

◎付録１．（ゲルの作り方） ・・・・・・・・・・・・ ２３

◎付録２．（消耗品一覧表） ・・・・・・・・・・・・ ２４

◎付録３．（帽子の電極配線図） ・・・・・・・・・・・・ 裏表紙

（2）電極ケーブルについて

＊黒いコネクタ部分は、絶対に水やゲルなどで濡らさないでください。

（パソコン本体の方のコネクタの先が錆びて、正常な波形が流れてきません）

＊コネクタの付け根の部分はケーブルが断線しやすいので、ひんぱんに折り曲げることは、避けてください。

＊携帯基板本体から電極ケーブルを取り外すときは、本体側のコネクタの左右の爪を両手で同時に丁寧に開いて、真っ直ぐにコネクタを抜き差ししてください。そうすればケーブルに負担がかかりません。

＊帽子チェッカー（別売り）で時々ケーブルが断線していないか、定期的にチェックしてください。

（3）銀板について

＊焦げやすいので、まめに磨いてください（電気の通りが悪くなり、効果が落ちます）。紙ヤスリ、ワイヤーブラシ、マイナスドライバーの先、カッターなどでこするとよく落ちます。

＊銀板は消耗品です。使用に堪えなくなった場合は、自分で交換してください。

（4）帽子のかぶり方

＊アージュニアー・ナゾクフ、頭頂、シヴァ結節の3点の位置を必ず合わせる。

（ずれやすいので注意!!）

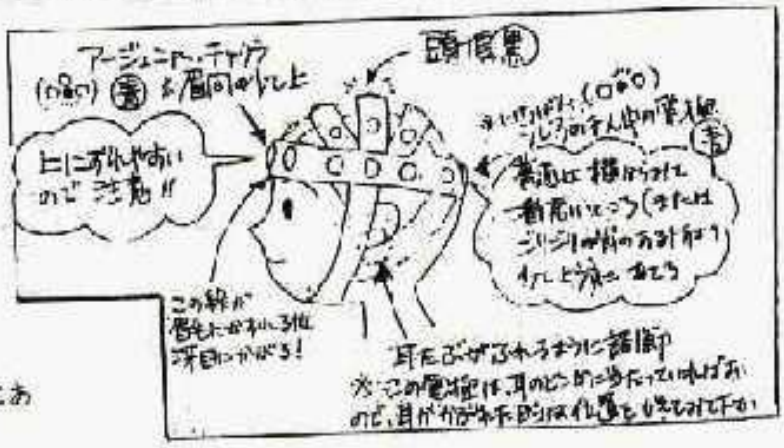
＊ホックを押さえて以下確認

・裏返しになっていたいか

・ゲルの冷たい感覚が頭皮にあるかどうか

（なければゲルを足す）

＊銀極コードがスポンジを横切らないように注意！！



※注意※

＊長髪の人は、特にゲルをたっぷり入れ、スポンジ表面にも塩って浸透させる。

（ただし、前面と後頭部の三つの部分が接近している場所は、隣どおしショートしやすいので注意してください）

＊帽子のすき間から髪をかき分けて出し地肌にスポンジが触れるようにする。

※耳の電極は、勝手に外さず必ず耳につけてください。効果がなくなります。

（6）耳クリップについて

＊耳にあたる電極（電極番号21,22…付録参照）には、好みで耳クリップを使うこともできます（別売り）。

＊耳クリップを使うと、耳との接触も確実です。

＊耳クリップを使う場合には、専用のスポンジを用います。元からのスポンジは使用しません。（電極はそのまま使用します）

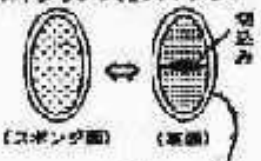
☆ 付け方

① 耳の部分の電極の銀板を表にして耳クリップの細い方へあてる。
（ホットボンド等で固定してもよい）

② 次に耳クリップ用のスポンジを付ける。スポンジ面が、クリップを挟んだときに内側に来るように、ビニール面の切れ目にクリップの細い方を差し込む。

③ バネの調節の仕方
- 倒す（角度を広げる）
（クリップの痛い人）
- 立てる（角度を狭める）
（クリップのゆるい人）

<耳クリップ用スポンジ>



<裏から見た図>

ここの折れ目を倒すとゆるくなり、立てるときつくなります

◎ゲルについて

＊揮発性の抗菌剤を使用していますので、容器のふたはしっかり閉めてください。

＊できるだけ冷暗所に保管してください。

＊容器への継ぎ足しは、漏れやすいので、なるべく避けてください。

＊ゲルの入手方法については、食品製造部にお問い合わせください。

＊保存は、1か月までが目安です（カビ・ニケ・悪臭のある時は使わないでください）。

＊ゲルの作り方については、付録を参照してください。

☆ゲルの入れ方☆

※ゲルが軟らかい場合は、針を付けたまま吸ってもよいです。
(注射器が汚れないし、紙でふく必要もない)

※緑色の線の電極（23番電極…付録参照）は、脳波測定をする時にだけに使うため、そこのスポンジにはゲルを入れなくてもかまいません。

◎注射器について

＊注射器を水の中に浸けたままにしておかないでください。注射器が固くなってしまいます。
又、固くなった場合、無理に引を抜くとゴムが外れ、取れなくなる場合があります。

＊注射器の動きが固くなってしまったら、いったん中を抜き、ゴムの部分にゲルを付け、何度か上下させれば、またスムーズに動くようになります。

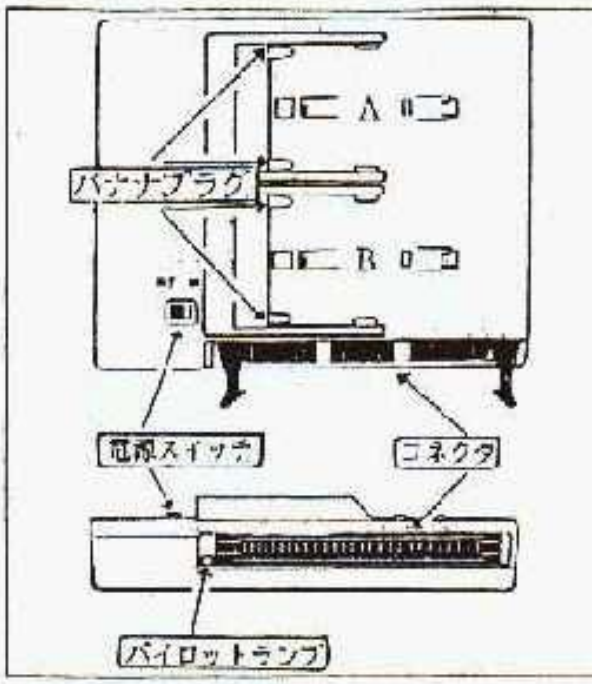
◎消耗品について

＊スポンジ・銀板・注射器・針・マジックテープ等の消耗品は、本部各支部、出張所、銀行班、COOPにおいて取り扱っております。消耗品一覧表に付録参照

＊メンテナンス次第で長持ちしますので、油を漏らさないように、大切に使ってください。

◎携帯基板本体について

携帯ＤＡ外観図



（1）定期チェックのおすすめ

＊この携帯基板は精密機器ですので、気づかないうちに故障している場合もあります。

＊常に正しい状態でイニシエーションを受けられるように、定期的にチェックを受けることをおすすめします。

＊チェックは法具設備にて常時行なっておりますので、あらかじめ連絡をした後に現物をお送りください（修理を伴わない、単純なチェックのみの場合には、電池等の付属品を送っていただく必要はありません）。

＊定期的に出張チェックも行っておりますので、ご利用ください。（連絡先　法具設備　ヘールカの剣　RKF38445　PSI2.CPN）

（2）基本的な使い方

①　電源スイッチがOFFになっていることを確認した後、充電された２つの充電池を電池ホルダーA，B（上図参照）にセットします。（詳しくは「（3）充電池の取り付け方」を参照してください）。

※この時電源スイッチは必ずOFFの位置にしておいてください。

②　電極帽子をかぶります。

③電源スイッチをONにします。このとき、パイロットランプが瞬間的に点灯することを確認してください。その後すぐにランプは消えますが、これは異常ではありません。

④電極帽子のコネクタを携帯基板本体のコネクタと接続します。ケーブル側のコネクタを本体に押し込んだあと、左右の爪を閉じてロックします。押し込む時平行に入れてください。

※コネクタの接続を乱暴に行なって、コネクタのピンを折ってしまう例が多いので、注意してください。

⑤電極から周期的に刺激が生じることを確認してください。

※ 注意事項 ※

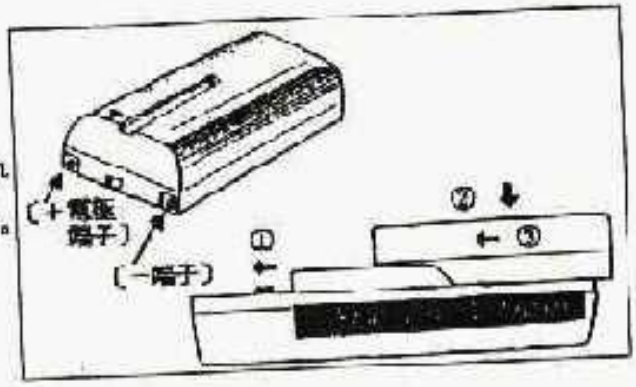
＊スイッチをONにした直後には、一瞬、乱れた波形が出力されます。そのため、頭部に異常な刺激を感じる場合がありますので、電極帽子のコネクタは、携帯基板のスイッチをONにした後に接続することをおすすめします。

＊コネクタ部分は、絶対にグルをつけたり、水に濡らしたりしないでください。
接触不良になり、正常な波形を受けることができなくなります。
最悪の場合は、コネクタが錆びて修理不能になる事例も発生しています。
＊電池は必ず2つともセットしてください。片側の電池だけでは正しい波形は出力されません。
＊およそ5時間程度を目安に電池を交換してください。
電池は、A、B2つとも最低7V程度の電圧がなければ動作が保証されません。満充電の状態（約8.4V）から、7V程度まで電圧が低下するのにおよそ5時間程度を要します（電池が新品の時古くなったら時間は短くなります。
＊パイロットランプは電源がONになった目安にすぎません。
電池の残量が少なくなっていても、電源がONになりさえすればランプが点灯することはありますので、必ずしも波形は保証されません。
＊パイロットランプが点灯するのは、スイッチをONにした瞬間だけです。
その後は、節電のためパイロットランプに電流が流れないような構造になっています。点灯した後にすぐ消えてしまっても波形は出ています。
＊B側の電池の方が早く消耗されます。
B側の電池は、およそ5時間で7V程度まで電圧が低下しますが、A側の電池の電圧はそのときでも8V以上残っているはずです。もし、通電後4時間（この時、まだB側電池の電圧は7V以上十分に残っている）でA、Bの電池を交換すれば、さらに4時間程度は正常な波形を出力することができます。
電池を途中で交換しないで使用した場合の動作時間は、約5時間ですが、このように途中で交換しながら使用すれば、約8時間動作させることが可能です。
※個々の電池の特性により、上記の数字は若干変動することがありますのでご了承ください

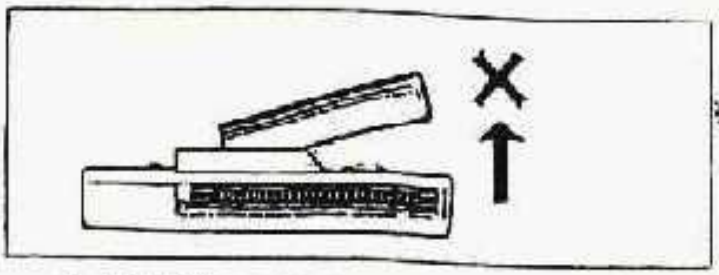
（3）充電池の取り付け方・取り外し方

1．取り付け方

① 電源スイッチをOFFの位置にする。
② 充電池の電極端子がバナナプラグに軽く触れる位置で、充電池の底面を本体に押しつける。
③ そのままバナナプラグの方向にスライドさせ端子にプラグを十分にはめ込む。



2．取り外し方



① 電源スイッチをOFFの位置にする。

② 充電池を横にスライドさせ取り外す。

※スライドさせずに持ち上げて、プラグホルダーのツメが折れホルダーがぐらつく例が多いので注意してください。

◎充電器について

（1）基本的な使い方

① 充電器本体に、携帯基板につけるのと同じ要領で充電池を2つ取り付けます。

② ACアダプターのプラグを充電器本体のジャックに差し込んだ後、アダプターを100Vのコンセントに差し込みます。充電器に電源が入り、充電が開始され、充電器のジャック横のランプが赤く点灯します。

※充電器本体、ACアダプター、100Vコンセントの接続は、どういう順番で行なってもかまいません。それによって故障することはありません。

③ ランプが消えたら充電完了です。電池を取り外して使用してください。

※事故防止のため、ACアダプターは速やかにコンセントから抜いてください。

> ※ 都合により、充電器には市販品を提供することがあります。市販品には、ACアダプターがないなどの違いがありますが、基本的な使用方法・注意事項は同じです。その場合は製品添付の説明書も併せてお読みください。

（2）充電時間について

＊2個の電池を完全放電の状態から充電を始めた場合、約3時間で充電完了となります。

完全放電でない状態で充電を始めた場合は、電池の放電状態によって充電完了までの時間は短くなります。（携帯基板の電源を入れたまま忘れてしまうようなことでもなければ、通常の使用状態で完全放電させてしまうことはありません）。

＊ランプの点灯（充電中）・消灯（充電完了）を充電完了の目安としてください。

（3）電池1個での充電について

＊2個の同時充電が基本ですが、1個だけで充電する事も可能です。

電池はどちらの側に付けてもかまいません。

＊充電時間は、２個充電の時と同じです（完全放電させてから充電して約３時間）。
１個充電の場合、充電器の構造上、２個充電の時より早くランプが消灯しますが、この時点ではまだ満充電はされていません。ランプが消灯してからさらに３０分ないし１時間程度充電を続けてください。

※ 注意事項 ※

＊ＡＣアダプターの本体側及びプラグ側のケーブル付け根付近を曲げないようにしてください。断線の原因となります。
＊他の装置用の AC アダプターを接続しないでください。致命的な故障を引き起こす場合があります。
＊充電器用の AC アダプターを他の機器に接続しないでください。アダプターや他の機器に致命的な故障を引き起こす場合があります。
＊電池は、斜めに抜き差しすることのないように、丁寧に取り扱ってください。（機械的に壊してしまう例が多発しています）。
＊ランプ点灯中に電池の抜き差しを行なっても故障することはありません。
＊電池を充電前に完全放電させる必要はありません。
＊フル充電された電池を充電しようとしてもランプは点灯しません。充電時にランプが点灯しない場合、電池が使用済みのものであるかどうかを確認してください。
＊充電が完了したら速やかに電池を取り外してください。取り外さないために故障することはありませんが、電池寿命が短くなる可能性があります。
＊充電中（特に充電開始後約１時間半の間）は AC アダプターや充電器が熱くなります。温度上昇による事故防止のため、これに覆いを被せないように注意してください。AC アダプターや充電器が衣類、書類、ゴミ同等の下に埋もれたりしないように気をつけてください。
＊充電器に通電中は、電池を接続する金属端子（バナナプラグ）間に約８４Ｖの電圧が発生しています。この部分がショートしないように、金属片等は近づけないでください。

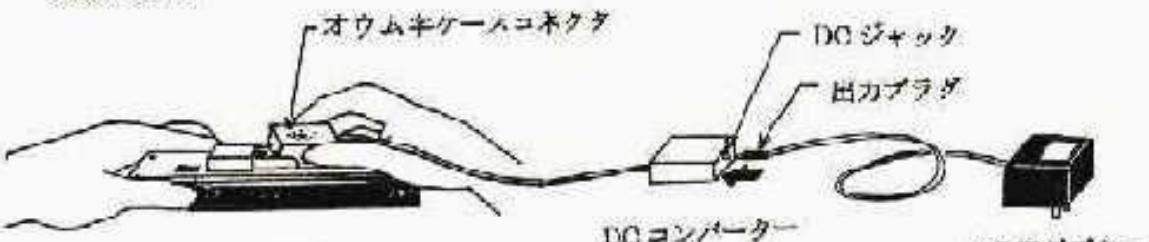
◎DCコンバーターについて

（1）ご使用前に

1．携帯基板（本ページA図）において、①の突起2個を、オウムキケースコネクタ（B図）を差し込むときに当たる場合のみ、多少削ってください。これらのカットは 機能上問題ありません。

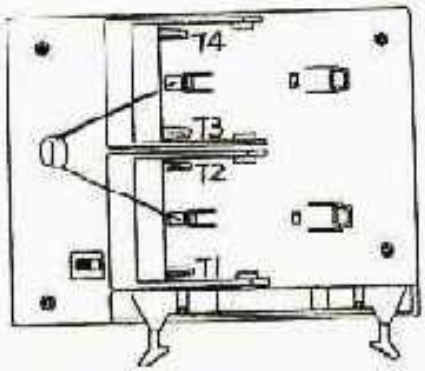
（2）仕様

1．DCコンバーター入力端子であるDCジャック（下図）にはACアダプターの出力プラグを接続します。



B図

2．携帯基板スイッチON時のバナナプラグ位置での電圧は標準で下図のT1端子0V、T2.T3端子8.4V、T4端子16.8Vです。この電圧はフル充電したバッテリーの電圧に相当します。



3．但し、オウムキケースコネクタを基板にセットしない状態では安全のため乾電池程度の電圧しか出力されません。

4．万一DCコンバーターの出力をショートさせた場合は、保護回路が働き出力が、出なくなりますが、この時はショートの原因を取り除いた後、ACアダプターの入力あるいは出力を差し直すと電圧が正常に戻ります。

5．DCジャックには専用のACアダプター以外は接続しないでください。

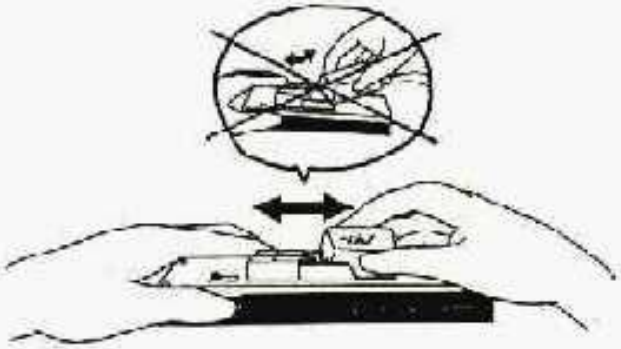
（3） 使用上の留意点

＊落雷の恐れがある場合は使用を差し控えてください。

＊コードを長持ちさせるさせるために、コードはなるべく、小さく丸めたり折ったりしないようにしてください。また、コードに装着されている灰色の高周波ノイズフィルターは透明ビニールスリーブにぴったりつけないようにしてください。

＊本体裏側のシリアルナンバーによって出荷時のデータが管理されていますので剥がさないようにしてください。

＊ボタムケースコネクタは両手で平行移動して正しくセットし、バナナプラグを持ち上げないようにしてください。（下図参照）



＊DCコンバーターの使用中は、かなり高温になりますので、DCコンバーターを毛布等、保温効果のあるものでくるんで使用すると、トラブルの原因になりますので避けてください。

＊ACアダプターは、伝受されたもの以外は決して使用しないでください。ACアダプター、コンバーター本体が故障する場合があります。

◎イニシエーションの感じ方について

＊イニシエーションのプログラムは約2分周期です。

＊次のような場合、イニシエーションの感じ方が変わってきますので、おかしいと思ったら、確認して、まずメンテナンスをしてください。

・ゲルが足りない　・鉛板が焦げている　・頭が汚れている

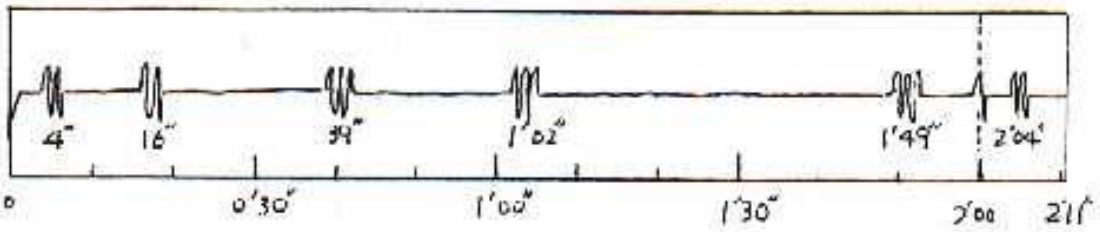
・コードが断線している　・スポンジを洗っていない　・電源が入っていない

・電池がちゃんと差さっていない　・電池の充電不足

＊メンテナンスをしても次のようなことがあるならば、故障の可能性がありますので、チェックを受けてください（後述の『修理に出す前に』も参考にしてください）。

・1か所に集中して痛い　・刺激がずっと連続して来る　・何も感じない

＊各チャンネル（電極）毎に、波形は異なりますが、図のような波形になっています。ＬＥＤチェッカーや頭に感じる刺激などで、動作を確認する場合などは、参考にしてください。



◎修理に出す前に

修理依頼品の中には、単なる使用法の誤りなど、故障ではないものも多く見受けられます。無駄を省くため、修理に出す前に、以下の項目をチェックしてください。

（1）携帯基板本体

＊パイロットランプは、スイッチをＯＮにした瞬間しか点灯しません。その後、ランプが消えても異常ではありません。

＊スイッチのＯＮ.ＯＦＦを繰り返してみても全くランプが点灯しない場合には、電池の再充電をしてみてください。（充電済みの電池でも、電池内部の保護回路が働いている場合がありますので、試してみてください）。

＊ＤＣコンバーターを使用している場合は、指定された以外のアダプターを使っていないか、また、接続が正しいかを確認してください。

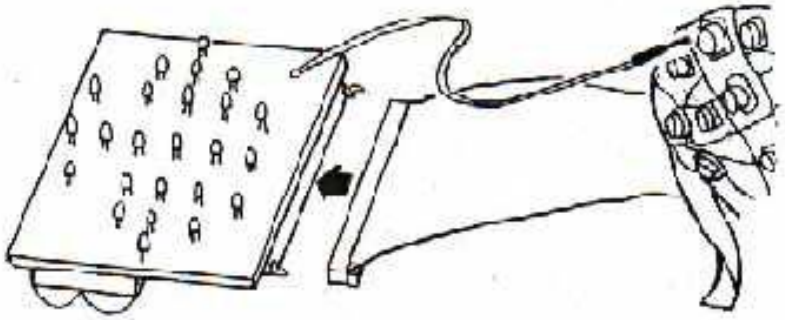
＊イニシエーション時、異常に痛いとか効かないと思われるときは、可能ならば、他の携帯基板を借りて比較してみてください。

（2）電極ケーブルの断線とその修理

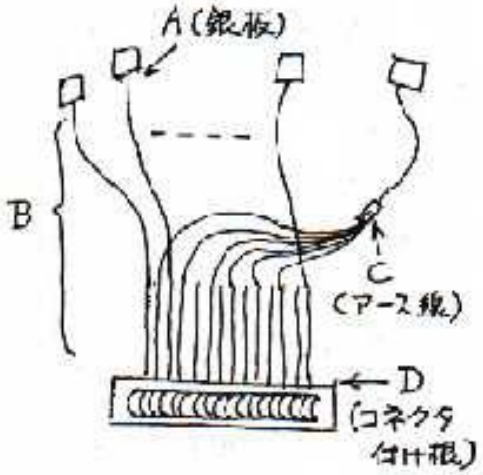
断線していると思われるときは、修理に出す前に以下の処置を施してください。

1．断線箇所の特定

① 目視、または端子チェッカー等を利用して、まず、何番目の線が断線しているのかを特定してください。



②次に、コネクタ部分から銀板までのどの箇所で断線しているのかを特定してください。
目で見てわからない場合は、軽く指でつまんでしごき、感触の異なる部分を探してください。あるいは、導子チェッカー等を使いながら、電線をいろいろ曲げたりもんだりしながら、接触不良を起こす箇所を探してください。
それでもわからない場合は、電線の要所要所に針を刺してみながら断線箇所を特定してください。



※断線しやすい箇所の主なものは次のとおりです。

A．銀板のハンダ付け部分

B．銀板～コネクタ間

C．アース線（共通線）のハンダ付け部分

D．コネクタの付け根の部分

2．修理

＊上記A,B,Cの場合は、修理は比較的容易ですので、各自でハンダ付けをして修理してください。

・電線と銀板どおしのハンダ付けをする前に、必ず電線の予備ハンダを行なってください。

※予備ハンダ：被覆をむいた電線の末端にあらかじめハンダメッキをしておきます。
これを怠ると、非常にハンダ付けの信頼性が低下します。

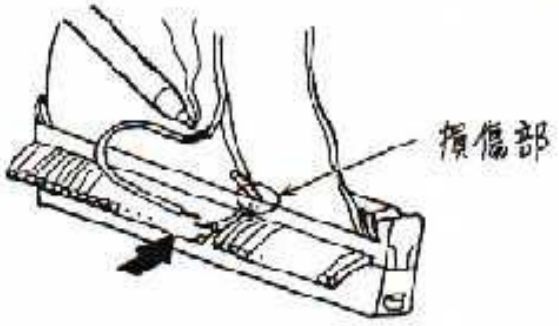
・ハンダ付けがすんだら、軽く引っ張ってみて、ハンダ付け不良でないかどうかを、チェックしてください。

・ハンダ付け箇所は、熱収縮チューブやホットボンド等で絶縁してください。
（熱収縮チューブ等の入手方法については、本部・各支部にお問い合わせください）。

＊ハンダには、普通のヤニ入り糸ハンダの他、ステンレス用の、ハンダ等いろいろな種類がありますので、電極と電線の材質に応じたものを使用してください。

＊前記C（コネクタの付け根部分）の箇所が断線した場合。

・ケーブルの末端は、補修用に多少長めに線を残してありますので、その箇所に切れた線をつないでください。



・断線箇所がコネクタの内部にあって、単純なハンダ付けでは修理不可能な場合は、
コネクタを付け直すことになります。ご自分でできない方は、修理品扱いで法人設備
へお送りください。
※この場合は、ケーブルが数センチほど短くなりますが、ご了承ください。
＊修理が完了したら、再度端子チェッカー等でチェックをしてください。
隣の電線とショートしていることなどが、ままあります。
(そのときには、端子チェッカーのランプが２個同時に点灯しますので、それとわかります。
また、端子チェッカーのコネクタハンダ部にゲルが付着していると、複数のランプが同点灯
する場合があります)

（３）充電器とＡＣアダプター

＊充電器のランプが点灯しないときは、以下の項目をチェックしてください。
・決められたアダプター以外を使用していないかどうか。
・フル充電された電池を充電しようとしてもランプは点灯しません。
電池が既に充電済みのものでないか確認してください。（電池の電圧が8.4V程度あればフル
充電状態と考えてください）。テスター等がなくて電池の電圧が確認出来ない方は、携帯基板
に電池を取り付けて数時間使用した後、充電を試みてください。それでもランプが点灯しない
場合は、充電器・アダプターもしくは電池の不良が考えられます。
・充電器とＡＣアダプターのどちらが不良か判断できない時は、他の人の物と交換し、
不良を特定してください。どうしてもわからないときは、両方とも修理に送ってください。
・通電中のACアダプターのブーンという音は故障ではありません。
※次のような場合には、修理が必要です。
・４時間以上充電してもランプが消えない。
・電池を取り付けていないのにランプが点灯する。
・使用済みの電池を充電してもランプが点灯しない。

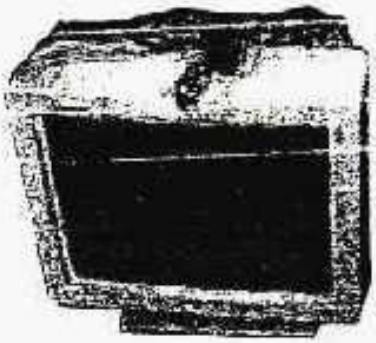
◎据え置きパーフェクト・サーヴェーションについて

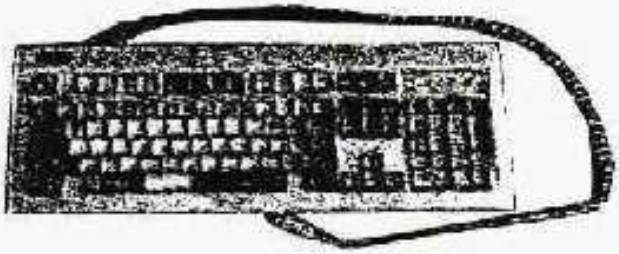
＊携帯型の出力電圧が最高６Ｖなのに対し、据え置き型は最高１０Ｖ迄の波形が出力出来るようになっています。

Ａ構成

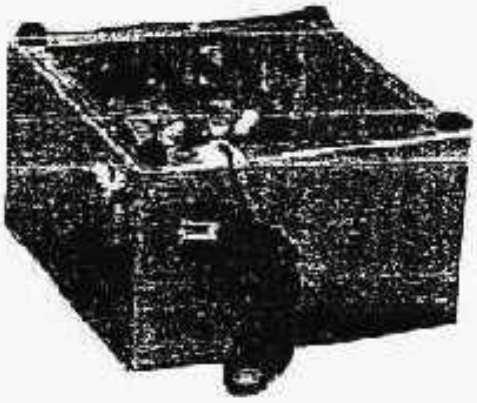
パーフェクト・サーヴェーションを受けるには下のセットが必要です。

①モニター（画面）　　②キーボード





③パソコン（電源コンセント）　　④電源ユニット（BOX）



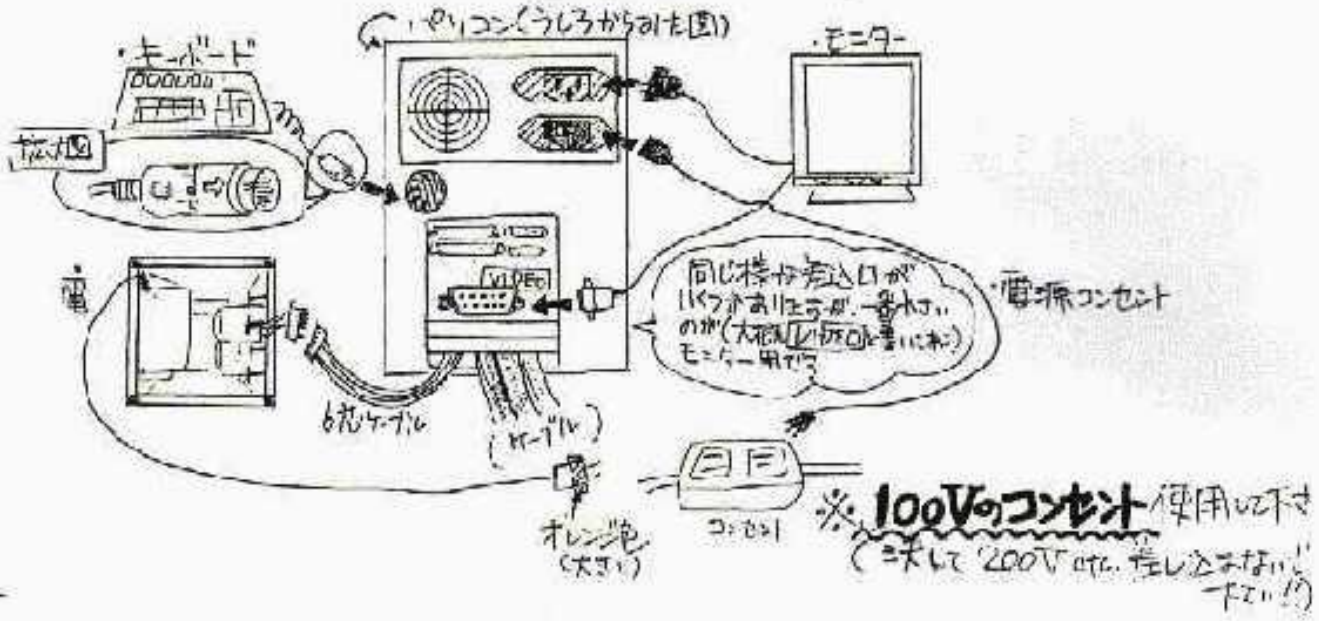
※④これについては、これ１台で２人分の電源が取れるように、コネクタが２組用意されています。ですから必ずしも、１セットに１台ずつ必要という訳ではありません。設置の都合上止む得ない場合には、分岐板を使用して、出力数をさらに増やすことも可能です。ですが基本設計は２人迄の同時使用のみを、念頭に設計されていますので、安易なタコ足配線は、避けて下さい。（目安としては３人迄と考えて下さい）。

Hセッテングについて

①から④それぞれの線を、パソコン及びコンセントにつなぎます。

そのとき差し込む方向をよく確認し、しっかりと奥へ入れて下さい。手応えがあるように

※特にキーボード



※出力の電極ケーブルは、出来る限り、延長せずに使用して下さい。延長距離が長くなれば長くなる程ノイズが受けやすくなります。

C. 立ち上げについて

◇①モニター（画面）②パソコン④電源ユニット（BOX）

それぞれのスイッチを入れます。

D. 日々のチェックとその対応について

電源ユニットチェック

＊発光ダイオード（赤い光）が四つともついてるかどうか

確認する。

＊四つとも消えていたら、その原因は、

（1）電源ＯＦＦになっている→ＯＮにする

（2）大元のヒューズが切れている→ヒューズ交換する。

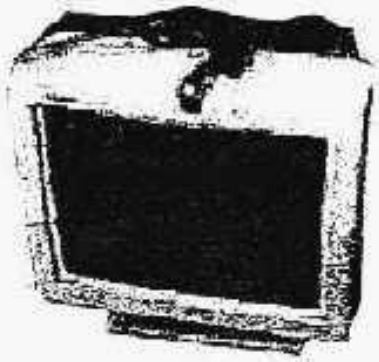
＊どれかが消えていたらそのヒューズを交換する。

モニター画面チェック

◇画面が付かないとき（図D－1）

・スイッチがＯＦＦになっている（みどりの光がついていない）

付いているのに出ないときはこの部分を調整してみる
前述B（セッティング）のどれかのコンセントが抜けているか、ゆるんでいる。



（図D－1）画面が付かないとき

◇波形が出ずに止まっている場合（図D－2）

①Keyboard error

press 〈F1〉 to RESUME の場合キーボードを接続してあるか、確認した後にＦ１を押します。
Ｆ１を押してもダメだったら、リセットボタンを押してもう一度立ち上げる。

（図D－2）波形が出ずに止まっている場合
①（画面はkeyboard errorの場合）

②Internal stack overflow
system haltedの場合、
ターボスイッチがＯＮになっているか確認しリセットボタンを押して再起動します。
※ターボスイッチをＯＮにした時に波形が出る時があります。

②画面はinternal stack overflow
system halted の場合

③Run time error１００又は１０３又は２００の場合ＰＳＩと入力してエンターを押しますと以下（図D－3）のようになります。

```
C:NOHA)  PSI
         1 file(s)  copied
         1 file(s)  copied
         1 file(s)  copied
C:NOHA)
```

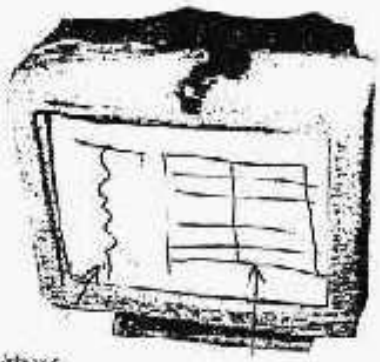
このようにモニターの画面の左上に出たら（図D－3）リセットボタンを押します。

③画面はRun time error
１００の場合

◇波形が出て止まっている場合

①「PAUSE」が押されて止まっている場合がありますので、エンターを押します。

②表（図D－7a,bを参照）の下に「実行中のプログラムを終了する（Y）と表示されている場合は、「スペース」キーが押されて、止まっている可能性があります。その場合もエンターを押します。



波形　　表

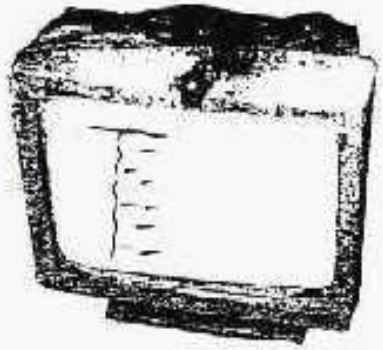
（図D－7a）

◇ノイズ又は割れる（波形が不連続になる）

（図D－4，5）

①「P」「A」「U」「S」「E」と入力した後、ESCを押してプログラム終了する。その後で「P」「S」「1」と入力する。場合によってリセットボタンを押します。

②ビデオカードやIOカードを交換して動作チェックを行う。

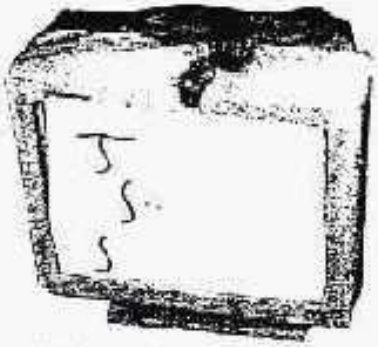


（図D－4）ノイズ

◇波形が直線の場合は

（図D－6）

キーボードに触れてしまって、モニター画面上の表（図D－7b）の強さがゼロに近い値になっていないか確認して下記の方法により修正します。



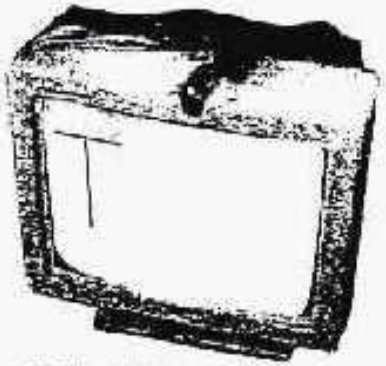
（図D－5）割れる

＊修正方法

・NOHA5Xの場合はキーボードの上下左右の矢印で操作すること。

・NOHA6Xの場合はキーボードの上下左右の矢印で値を100にした後に2分経過してからリセットボタンを押すと波形が正常になります。

※経過時及び残時間の表示が変化した後にリセットボタンを押します。



直線（図D－6）

※注意　バージョン１．０の場合には、ＮＯＨＡ５Ｘです。
　　バージョン１．５以上の場合がＮＯＨＡ６Ｘです。

NO	強さ	長	経過時	残時間	予定時刻
０１					
０２					
・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・
・					

（図Ｄ－７ｂ）

◇システム立ち上げ時に、ピッピッ音がする場合
①ビデオカードの不良もしくは、差込み不完全が考えられます。

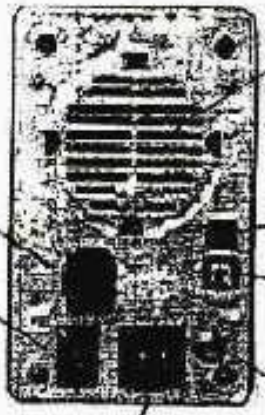
◎マントラメトロノーム・ヴァージョンI

この「マントラメトロノーム」は、尊師のマントラ「オーム・アー・フーム」と「はい吸って」・「はい止めて」・「はい吐いて」の合図でプラーナーヤーマの間隔を正確に計れるようにしたものです。

プラーナーヤーマやヘラクレスの保息時間の測定等に役立てて下さい。

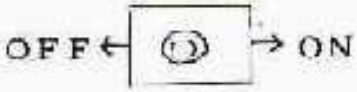
☆本体各部の名称

①電源スイッチ
②イヤホンジャック
③ボリュームつまみ
④秒数設定スイッチ
⑤パターン切り換えスイッチ
⑥スピーカー
⑦リセットボタン



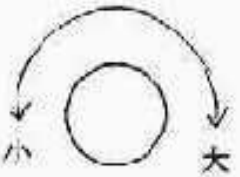
☆各機能の説明

①電源スイッチ
電源を入れる時は右にスライドします。

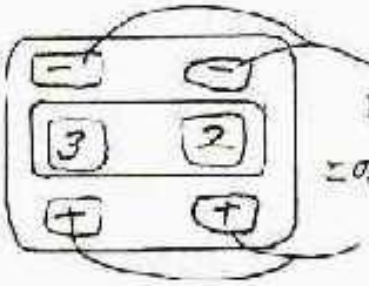


②イヤホンジャック
イヤホンを使うときは、このジャックにイヤホンプラグを差し込んでください。
＊ステレオタイプ用です

③ボリュームつまみ
音量の調整をします。

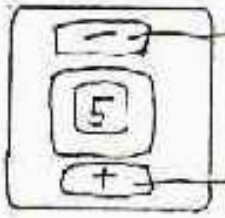


④秒数設定スイッチ
プラーナヤーマで吸う時間を決めます。



＊プラーナヤーマはお好みのパターンで。
＊ヘラクレスのときは5番または0番が適しています。
注意・・・パターンの切り替えは、電源スイッチを一度切ってから行ってください。

⑤パターン切り換えスイッチ。
この「マントラメトロノーム」に記憶しているパターンは10種類あります。



⑥スピーカ

音声の出力部分です。

⑦リセットボタン

リセットボタンは、点検用ですので普通は、ありません。

◎電源について

単三電池を一個使います。電池の交換は「マントラメトロノーム」の本体を止めている四つのネジをドライバーで外し、フタを開け、裏側に付いている電池ボックスに新しい電池をセットします。

電池はニッカド電池でも大丈夫です。

スイッチの番号	呼吸の比率（吸う・止める・吐く）	マントラ合図の入り方
1 2 3 4	1：0：2 1：1：1 1：2：1 1：4：2	○マントラは一秒ごと。 ○合図は比率にそって各一回入ります。 （例）秒数設定が5、パターン2のとき、マントラは一秒ごとに「はい吸って」「はい止めて」「はい吐いて」の合図は五秒ごとに入ります。
5		秒数設定で指定した秒ごとに一回、マントラだけが入ります。
6 7 8 9	1：0：2 1：1：1	○マントラは一秒ごと。 ○合図は比率にそって各々繰り返し入ります。 （例）秒数設定が5パターンは9のとき。マントラは 秒ごと、合図は、「はい吸って」が5回、「はい止めて」が20回、「はい吐いて」が10回、それぞれ一秒ごとに入ります。
0		一秒ごとにマントラだけ入ります。つまり純粋なメトロノーム

◎マントラメトロノーム・バージョンII

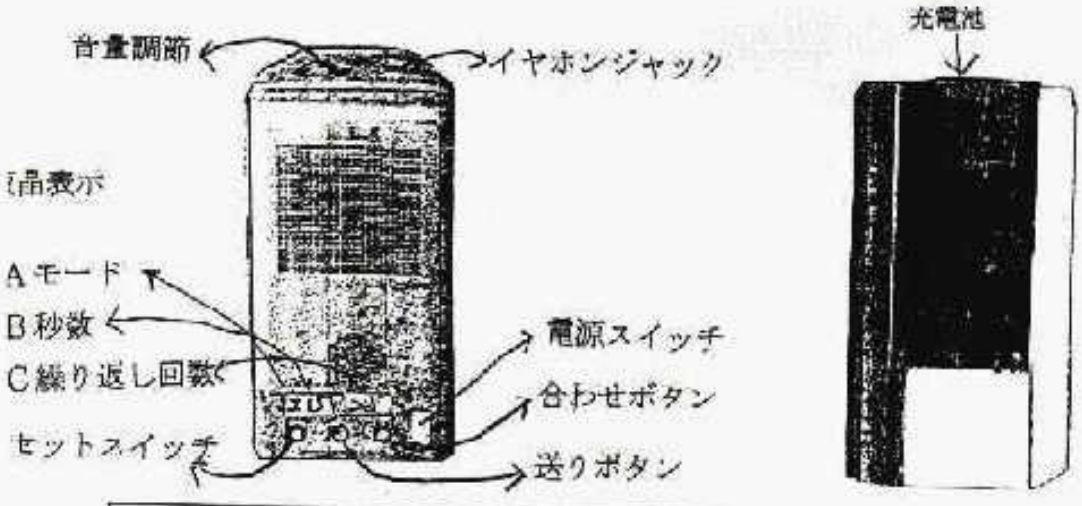
音質をよくする為に改良されたものです。
スイッチの表示が液晶表示になりました。
電池の交換性が良くなりました。

1. 電源スイッチ……電源のON／CFFに使います。
2. 液晶表示……A. モード…「吸って」「止めて」「吐いて」のパターンモードの表示です。
   B. 秒数… 「吸って」の時間の秒表示です。
   C. 繰り返し回数…繰り返しモード時の繰り返し回数を表示します。

※繰り返しモード…繰り返し回数を0以外の設定した時、一つのパターン（例1：0：1：0）を設定回数繰り返して電源を落とす機能です

3. リセットスイッチ…「吸って」「止めて」「吐いて」のパターンをリセットし「吸って」から開始します。
4. 送りボタン……これを押す毎に液晶表示が左から順に点滅します。点滅している個所を合わせボタンで設定します。
5. 合わせボタン……液晶表示の点滅している個所の数値を合わせます。一回押す毎に数値が一つずつ上がって行きます。

☆電源について
携帯基板の充電池を1個使います。
充電池の取り付け方は「携帯基板本体について」



モード表「吸って」「止めて」「吐いて」「止めて」			
モード0	1：0：1：0	5	1：3：2：0
1	1：1：1：0	6	1：4：2：0
2	1：2：1：0	7	1：4：2：1
3	1：3：1：0	8	1：4：2：2
4	1：2：2：0	9	1：4：2：4

付録1.

○ゲルの作り方

材料

水……800mℓ
塩……52.5g
白の粉末……A
グリセリン……200g
紅色の粉末……B

用意するもの

1.5～2ℓのペットボトル
ボールorおわん
スプーン……各1個
できれば……泡立て器
じょうご

＊材料の説明

・Aの粉末……2種類の粉が混ざっています。

・Bの粉末……個人では購入しづらいので（大きなロットでしか売っていないため）大切に使ってください。ゲルの固さは、これで調整します。もし、やわらかめがよい方は、入れる量を、ほんの少し減らしてください。

・塩……塩52.5g（1ℓ分）は精製塩だと大さじ3.5杯です。塩が多いと電気の通りが良くなります。一般に売られているものを使ってください。

・グリセリン……薬局でも売っていますが、売っているものは水分を含んでいるかもしれません。その場合、Bの粉末が混ざりにくくなりますので、泡立て器やハンドミキサーでよくかきまぜてください。買う時に水分量が少ないものを選ぶとよいでしょう。グリセリンとBの粉末を混ぜる器は、よく水分をふきとるのがコツです。

・水……水温が低いと混ぜやすくなります。でき上がり直後は粘度に欠けますが、時間が経てばゲル状になりますので心配いりません。

＊配布される材料

・粉末AとB（1ℓ分で包装）

・グリセリン（ペットボトル入り　1本でゲル8ℓ分）

＊グリセリンのペットボトルにあらかじめB等分の線をつけておくと使用量がわかりやすい。

＊作り方

① 水、袋Aの粉末（白）、塩をペットボトルに入れて、よく溶かす。

② グリセリンは使う前によく振っておく。
グリセリンをボールに入れてBの粉末（赤色）を入れ、だまにならないようによく混ぜる。

③ ①に②を加え、すぐにフタをしてよく振って混ぜる。全体が均一になれば、でき上がり。

＊コツは①に②を入れてすぐに混ぜあわせること。

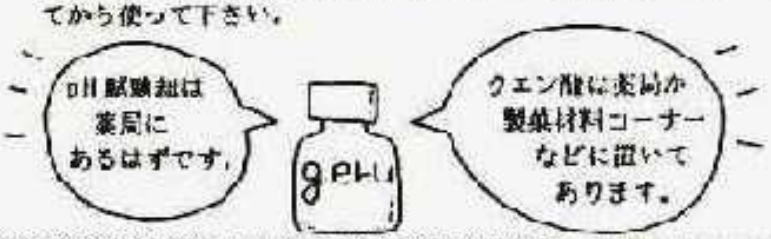
＊注意点

・①のペットボトルに②の材料を加える時（③の工程）、入れにくければ逆に②のボールに①の材料を加えても構いません。その時は、泡えずかきまぜながら休まずに③を加えて下さい。途中で休むと（時間をおくと）材料が固まって混ぜるのが大変になります。

・できれば作り方の①の溶液をpH試験紙でpH5.4～6.5になっているか確認してください。pHが高いと（7.0以上）、粉末がよく溶けません。その場合は、クエン酸か、お酢を少しずつ加えて調整してください。水のpHに異常がなければ心配はありませんが念のため。

・作る時にグリセリンの量を減らしても品質には問題ありませんが①と②が混ざりにくくなります。

・グリセリンは密封して保存してください。グリセリンを別の容器に移して保管する時は、タッパー等、密閉できるものを使用し、グリセリンを入れる前にきれいに洗って水分をよくふきとってから使って下さい。



消耗品一覧表

【取扱品目】

☆鋼板

☆スポンジセのみ

☆スポンジ（台なし）

☆スポンジ完成品

☆耳用マジックテープ

☆耳用クリップ

☆耳用クリップ用スポンジ・・・1セット

☆収縮チューブ

☆補修用銅線

○電極帽子

○保護帽子

○電極ケーブル

○注射器本体

○注射針

○帽子チェッカー

○10Vチェッカー

○ホットボンドの芯（φ7.5mm）

○ホットボンドの芯（φ10.1mm）

○延長ケーブル（6V用）

○延長ケーブル（10V用）

＊＊＊問合先＊＊＊

☆印は本部各支部、出張所、修行班で取り扱っています。

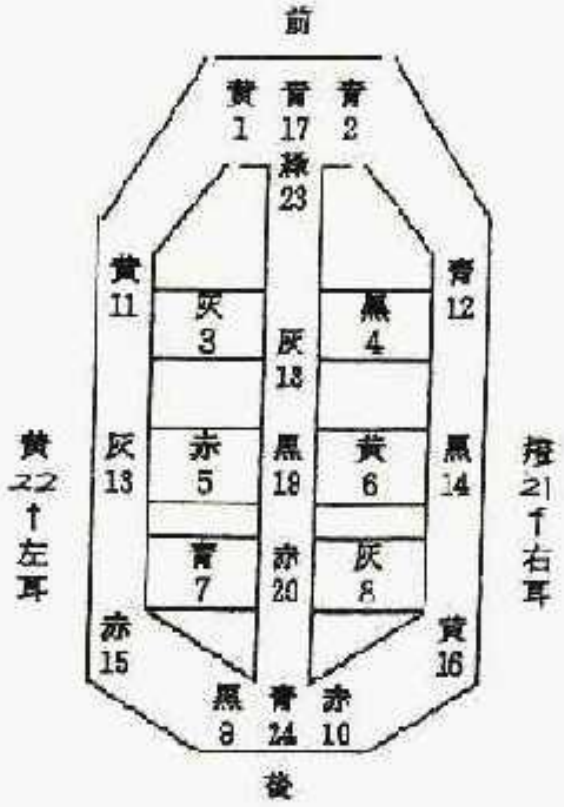
○印はCOOPで取り扱っております。

(COOP) WEM34921　COOP. CPN

付録３．　◎帽子の電極配線図

◎５０ポケーブルの色と場所の対応表

帽子を裏返さずに上から見た図



※右耳（21）は橙の代わりに白の場合があります。

※緑色の線の電極（23番）は、脳波測定するときにだけ使うため、そこのスポンジにはゲルを入れなくてもかまいません。

※左図の見方

茶
赤
は、そのコードがコネクタのすぐ近くで切断されていることを示す。

白　アース
橙　アース
アースと書かれているコードは、一つにまとめられており、ここから橙のコードが１本のびている。これは右耳(21)につながるものである。

黄　16
青　17
黄色のコードの先の銀電極は、上の帽子の図の１５番の場所に接続。同様にこの青は１７番の場所に接続する。同じ色のコードが何本もあるので、間違えないように注意する。